





序

書肆星運堂主人山の井は少冊を  
 懐かこ一末しゆ之授合あ然ん乞こ抄しやう世書せしよ本ほん之年  
 久く一我われ傳つた書か法ほう禮らい也や文ぶん字じ結むす連づ己こ落お  
 七しち五ご備び之しありしをを六ろく之し見み訂ちやう之し抄しやうの  
 書しよ子し然ぜん之し二に他た之し不ふ遠とん之しありし四し時じ











えしめわらむのそし わらむのそし 初より  
新しき年 上日 年頭 終且 聖節 改且 歳且 年の  
てどめ月のすしめ月のすしめあれい之始 三え 三えをよ  
り星の節月の節日の節あれい之節のありこといひたり

○四方 星とる節 付たりとけ能 三心のさるは時を  
づしぎ属星とるく天地四方の心凌をおし

なきて年災を払ひ宝飾を飾りたりとる 儀とて侍る也 公事  
根原に江次第に委 星とる節より 年中約支のち合り  
高季の星本令星とるの七色つとる 陰の事と云といひ  
いま左の星の世俗星佛とて 委るも 三心をくふる

○歯固 後餅能 大板いよ 日ゆづり 歯  
柔能 うらうら 志ろは おやこ 世徒 同 答 云 云 たり

こめといひてとちめりてにむふ事 歯固の事 人  
ひくむらび 命とす 故をとり 名字とよむ 歯固の事

ひくむらび 命とす 故をとり 名字とよむ 歯固の事  
納ま枕草紙のゆづり 名をとり 又よむ 歯固の事  
をとり 名をとり 又よむ 歯固の事  
よあり 名をとり 又よむ 歯固の事  
又よむ 名をとり 又よむ 歯固の事  
名をとり 又よむ 歯固の事

○御 名をとり 又よむ 歯固の事

薬と借と 名をとり 又よむ 歯固の事

○椒 名をとり 又よむ 歯固の事  
○椒 名をとり 又よむ 歯固の事  
○椒 名をとり 又よむ 歯固の事



一 中文報載あり ○ 朝賀 朝賀朝賀おる一 申あり元日に

群臣 天子とありトナリ申と名義賀儀瑞を此所あり申と之小

朝拜 朝拜を異らる由り子下し年中行事高合子侍り朝拜の旨良

とくくぬをとしつた小朝拜 ○ 元日御會 法司御會 七

儀 殿赤國柄奏らむ笛 七曜所傳とい日月火水木金土の七

曜とをうしうらよのつひのこよと之水柱とい去年沙室にたき免

うる沙の厚さつ唐さそこまの奏してせためしとて心かりの目

とてせまらるとも服赤の能い鶴といふいさうとて筑紫よ

りてせまらしとむりしと節をあらに世しうらやこれの申

法司奏とてえの目高合のつるてあるとこ又國柄奏とて三とう

ふひ笛と吹率も此高合に侍り 御神天皇吉世をりまの侍

公事 根原みみへり ○ 院神 神一日院と申のく此の西

拾苾 在 ○ 祇園 あびりか者乃神事 元この宮一

天日祇園のお敷 て松の本此あつりけよ新し火と

き て大が難意の為り利らるし一説大鳴といふ非也 ○ 年

徳のり と ○ 元方 棚 此は判賽女のうとをえ方にい

○ 田 沙 川乃く経 ○ 若急 ひ変 元朝よ妻あ

めてい ひ ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を

あり侍 り ○ 川 の神 棚 此左家の妻戸小極をうまて神を



あまど世流問答よねいふ年とちきり竹の万世と珍なりあるれい  
年流の総ひり初より一糸禪園の法後作を伝くま也  
○かさうふを 他かさうふはかさうふはかさうふの炭他  
あうくあをると伝ふこれくまへて非社の志めとあうくあを  
といくを河うがかさうふあうくといまよなるあうく

○かあ鯛 他の伊勢海をうふ 他○若水 他ひく

井草水 水桶 他 ちき 御生 氣 の た 井 と 然 して ふ と し  
てくよらやせのしてまきの日主水司内裏よまきの  
て是ときあうの年中の秋氣を除くとしよ本又伝ふこと  
年中行幸よの合よあうくは是とつと井ひくともよこ  
まのまうめよくめがま水と云ふ又世流問答よ云わ  
くも此日井草水とてまき水と吞る伝ふやと伝ふ

是まきの幸よ在家よの年中とよまきのえ日の子よ井のまを  
まきとまき水とてま水かとめらめて用傳りくはまど  
ちまうせていまきの幸よまきのまきによつて所を印と定傳  
てこれまき連よのまき水え日といくと他傳いお用  
○ねがふ 他え日よ大ねまよまきまき条を ○若 ワカ

モク餅 他 ニケ日につまき餅を ○雑煮 雑いふ 他 クんをい

いのり 口 むま が 口 ひら き 豆 口 ひ き  
牛 口 と が 口 あの 口 こ か ら け  
○甘達 ホウ ライ 菜

かざ 他 あ か 家 口 か ぞ 乃 こ う ど の 子 こ 因 つ て そ の 一 節 は だ こ  
か の む き せ り い ふ く か や か こ  
かち栗 く 身 梅 ざ い め ら し ご い く 柚 子  
たちばな か さ り 世 老 秋 の こ は も り き と い く ハ エ 目 あり



○たろろ

他 生海嵐

○をーあ

土日記子元日に用ひたる者

に次分もえ日押粘一杯いつうあひ

○年男 他 ○庭

かまきり ○かくわ 狐補

口やくき菜と福もろとそく

○やーたま

他 年始の持主

○球

他 袖ふちあう

玉寿万葉ニ玉きつると云是こ袖中抄これ黄帝の亡

○ちーひく

他 されちやくもは口や里お子は相鬼の子口

おしるあひとつう秋乃蟻蟻故とくよおくそ故よ

魔弓

○破魔矢

口をほとて懐とちるりてうの弓矢

いとむまきくろむりの

○ちーひま 他 ○藏ひま

○湯屋をどめ ○弓をー免 ○馬社のぞめ

きろ ○きそんめ

日まぬきをあらひくニヶ日のうら吉日

ともかきうてのうどめ ○三川を流連平の 口他修 ○叔

氣 ○初鳥

え日の初乃

○初ッ号

立夫の初 ○去

年今年

うらじよひのま

○曆ひきき ○公業



試ふ 試すめ 他 吉也 日 ○松をや 他 ○くしひそめ 日

○子壽 セン 万歳 サイ 万歳 亦 萬歳 節のよ敷 ○ちほ約 他

是よりいらくは ○ちほ遊 日 ○たさぐり 他 俗にひあはさる

○い祢つむ 他 ○いひあはる 日 正月の麻 ○せち振 他

他 ○ちくけ祝 日 ○ちくけ文 日 ○桃符 桃板 桃梗

神茶 鬱對墨 是いさる ○桃の本 桃の木の皮を ○せち振 他

の二神のくちを弦子りて之日門より ○畫鶏貼戸 ニ 草索 是も

伝へるを桃符とも 桃梗とも ○畫鶏貼戸 ニ 草索 是も

あり 諸を門戸のくちをささる ○如願 日 高人 信州 妻 子 如 願 と 子 女 を 乞 ね り

は 高 人 不 一 せ ぬ ち せ ぬ 如 願 子 女 を 乞 ね り ○如願 日

て 令 如 願 と 子 女 を 乞 ね り ○竹灰を花 立 春 の 日 竹 の 灰 を 律 の 環 へ して

を け け 灰 の 氣 香 け け 灰 ○春日盤生草 ち 春 の 日 草 の 生 草

を の つ り 草 と し 草 文 ○春日盤生草 ち 春 の 日 草 の 生 草

を と 草 盤 と して 立 春 の 日 竹 の 灰 を 律 の 環 へ して ○春燕 日

は と あり 餅 生 草 を 煮 湯 と 号 せ ば 草 文 ○春燕 日

を い せ び ○春燕 日

いろ どり して 立 春 の 日 竹 の 灰 を 律 の 環 へ して ○春燕 日



○初子の日 子日のわらひ 小松ひく 子日の雲 たるひの  
くしの玉をくまき 是の万葉集より家おののふ

らにぬむの事とい其のといふ事に小松をえきて正月初子  
日こびひすりなをを記そむる事と袖中抄より

○草 初こりきとくさなづかえこづる 昔昔 くらまこ  
ごまやうすくあらざる 仏の元 昔昔つむ 破草搦

昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔  
昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔 昔昔

○初寅と系 仇 小ごちろ 仇 上の宮乃日 初子  
りとのみ派のわらひをいせよ火赤るをいきて上よりやそるをいして

○お乞 宿寺 天狗 宴 仇 二日 強指 卯杖 卯杖 卯杖  
をく此本ともをえんすつてまきりて二本とまよひておるやけまたて

○二宮大食 二日 二宮 二宮 二宮 二宮 二宮 二宮 二宮 二宮 二宮  
を伝 王以下二宮まひして終礼ありて答

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり

○朝草 行 走 二日 是の天子の年始 上  
公事 根原 皇并に母后のまにけり















百友とくくササとたてやうシ。かゆの本日。り色

ま内セウ者セウはたさめらる幸とくシ。づえシちいさな志シりシとよて女の腰シとらうたりシふシ進シこシとく

とわりシ獲シ衣シよりシ色シ杖シとシりシわシづシちシのシうシとシ。小豆粥シあシづシうシけシとシりシおシしシてシくシとシちシ幸シ是シありシ。

いシとシ子シ。年中シのシねシとシ除シくとシりシ公シ事シ。お田シ。乃御粥シ。たシまシてシ年シ中シのシ四シ角シのシ香シとシ相シまシとシ。

頭カシラの神事シ。十八日シ是シはシ天シ子シ引シ場シなシりシてシらシとシらシ後シはシるシ幸シ左シ法シをシ。

引シ。十八日シ是シはシ天シ子シ引シ場シなシりシてシらシとシらシ後シはシるシ幸シ左シ法シをシ。

厄ヤク神ジンまいシ。十九日シ。魚イシ民ミンおシ来シ。こシまシはシ八シ幡シのシ厄シ。

とシとシこシるシあシひシりシちシりシくシいシまシのシ魚シとシ養シをシ大シくシいシとシ魚シ乃シ養シ魚シをシ。

とシえシまシてシ汝シがシるシ孫シ亦シくシ災シ難シとシ免シれシとシ物シをシりシゆシんシとシ。

餅シとシかシさシるシ。二十日シおシんシごシ。北シ正シ月シとシりシ。煎餅シ紙シ。

天シ空シ。りシうシうシにシ東シのシ俗シ正シ月シ北シにシ紅シのシ糸シをシてシ賣シ餅シ。

伊シ都シ伎シ師シ祭シ。大シ日シ官シ祭シりシ近シ。内シ方シ。

伊シ都シ伎シ師シ祭シ。大シ日シ官シ祭シりシ近シ。内シ方シ。

伊シ都シ伎シ師シ祭シ。大シ日シ官シ祭シりシ近シ。内シ方シ。

伊シ都シ伎シ師シ祭シ。大シ日シ官シ祭シりシ近シ。内シ方シ。



廿日仁事及身行ける文人歌と云う詩と  
化てあまうて清きうあ 幸と云ふや  
○吉田清稜（十九日）

○外記の改始（三ノリトハシ） 吉日と云ふ外記の恒例修訂の政と云うと  
あるよ友あるれ正月より當年の政を行

ぬる ○御忌（キヨキ） 北廿日法隆上人の忌日と云う十九日  
かえり 御忌（キヨキ） けりふやとて七日知恵院とて法隆寺  
○福壽（フクシウ）

らさ（ラサ） 元日に花咲とく ○東風（トウフウ） こちふく ○沙弓（サウ） くる

あな（アナ） 〇あてまくる（アテマクル） 〇魚氷（イシホ）

子の初（コノハツ） 月令ままの好 ○雪（ユキ） くるふ 〇魚氷（イシホ）

雪のこえり 雪のまづく 雪ある 〇夏水（ナツミヅ） の節

中（ナカ） ○狛魚（カウイ） と祭（マツリ） 令（ノリ） ○本乃芽（ホノメ） ○下（シタ） とえ（トエ）

いづり（イヅリ） 但月令ま草本萌（キサレ） ○くたち（クタチ） 〇鶯（ウ） 茶（チヤ）

水（ミヅ） の節（ノビ） 此一假（カ） まあるひい茶乃（チヤノ） 屯（ツン） 三月と云う ○鶯（ウ） 茶（チヤ）

水（ミヅ） の節（ノビ） 此一假（カ） まあるひい茶乃（チヤノ） 屯（ツン） 三月と云う ○鶯（ウ） 茶（チヤ）

〇水（ミヅ） の節（ノビ） 此一假（カ） まあるひい茶乃（チヤノ） 屯（ツン） 三月と云う ○鶯（ウ） 茶（チヤ）

〇梅（ウメ） 〇花（ハナ） 〇梅（ウメ） 〇花（ハナ） 〇梅（ウメ） 〇花（ハナ） 〇梅（ウメ） 〇花（ハナ）

〇柳（ヤナギ） 〇草（クサ） 〇川（カハ） 〇柳（ヤナギ） 〇草（クサ） 〇川（カハ）

〇同（ドウ） 〇と（ト） 〇讀（ヨミ） 〇と（ト） 〇讀（ヨミ） 〇と（ト） 〇讀（ヨミ）







二月

まわらば梅見日花は小正月月口仲春夾陰如  
月令月陽中 正月ののどろありしを此月さく久

りて衣を交ふさくら公よてさくらまといふに奥多抄を幸い  
を皁を神の勾芒伴夾陰よあさふとつり 幸又

○中和節

二月の  
○鷲鞍虫節

二月の  
○初午

初の午日あり  
よまつるすく

○東福寺せんが

○水間寺

初午詣

和泉のふしなつる  
祝世まるとくや

○本物寺系

○献

生子

あつらうは二月一日よあさき儀よ百  
穀心李の菓種を今あまるとつり

○釋奠

釋奠二  
月上の丁

此日大講家宗つて孔子并三十哲乃教と祭らるる事此礼記の五割  
よ坊本と釋祭と興て先師と礼まるとわらぬ子釋奠とも祝祭  
ともいつし訓よいとまやうりとよむとくや年中  
○春日祭  
上ノ

二月八日あはれせと祝奠といひあまあり

○春日祭  
上ノ

先ま白と赤中が執使にふ高日の内侍  
むふ出車わり上師并しりふ向ふと公事

○大原野祭  
上外  
日大

くさかまらわりのよあはるとくや  
○祈年祭

四日大和又以下  
三子る此二座の

神とおやけよあはるとせむよ冬を年  
さいのうを後ふよりあり公事

○祇園御八講

八日於  
其抄

○列見

十一日公卿并納を外記史ると冠よ花とつり  
て改敷とてとこまのふく公事く六位以下の藝

能あるものを撥て式アヒアの二者よりひきろておつるを  
上心めしよせて器器容儀とらね列見といふとそ公事

○土口

野の餅くらう

○比良乃八講

○比良乃八講



○廿彩の能七りより十あり ○二月堂の行

ひる幸あり朝日より十なりて云々 ○遺教經ユイケウキヤウ 佛ハツ

入路之として此經を説くより世後回響にあり九日より十れ

日まて小冊紙か出雲より此經と訓讀し釈迦の名号と唱あり

○佛の別二月のつら 佛ハツ

○真福寺常サツフクジジョウ

○春分乃ハルノヒ

○治聲チセイ 社ハツ 日ヒ

○社翁シャウウ 夜ヤ

○積塔ツキタ 十六日或る塔とかがり

○樂會ガクワイ 拾シウ 艾アイ

○二月の節ニゲツノセツ 中ナカ

○天王寺聖靈テンノウジセイレイウ

○宗寺寂勝ソウジヤクウエ 会カイ

○小野の忠忌日コノノチスキヒ 日ヒ 天テン

○永子法エイシキヤウ 經キヤウ 宮ミヤ

○廿彩の能ニサイノノウ

ひる幸あり朝日より十なりて云々

入路之として此經を説くより世後回響にあり九日より十れ

日まて小冊紙か出雲より此經と訓讀し釈迦の名号と唱あり

○佛の別二月のつら 佛ハツ

○真福寺常サツフクジジョウ

○春分乃ハルノヒ

○治聲チセイ 社ハツ 日ヒ

○社翁シャウウ 夜ヤ

○積塔ツキタ 十六日或る塔とかがり

○樂會ガクワイ 拾シウ 艾アイ

○二月の節ニゲツノセツ 中ナカ

○天王寺聖靈テンノウジセイレイウ

○宗寺寂勝ソウジヤクウエ 会カイ

○小野の忠忌日コノノチスキヒ 日ヒ 天テン

○永子法エイシキヤウ 經キヤウ 宮ミヤ



大淑若 行法公等。○二日灸。○日出かり。口々々の二八月あなわ  
る幸々々々の季と

その向ありのちとよ 彼孝<sup>ガク</sup> 時正<sup>シマ</sup> 孝<sup>シマ</sup>の秋に於て卒

短の天ふかたは樹あり二月よはれ其まう七日七扱に一はる林は日  
よ実あり林も帝釈ホ各集りてはる其実の七り乃は世世界の是

人忍人の名とあるせり故よはは孝七りのむと ○くらあえ元

と出子<sup>ハ</sup> ○孝<sup>カク</sup>世<sup>セ</sup>とたは令<sup>コト</sup> ○純<sup>ツキ</sup>尾<sup>ヲ</sup>乃

鷹<sup>トウ</sup> 白尾の鷹と貞徳云其政を孝の尾と孝のきとあるは  
とて白き時中て純く入り鷹が尾と孝とて入り山へ海

る公なりし ○鳥の巢<sup>ス</sup> ○鳥の物<sup>モノ</sup> ○雉子<sup>キバ</sup>

さあては世よの雉と此鳥とりふ ○きくす人<sup>ヒト</sup>を

と中り物とあり山胡鷹すこはるけり場の雉とあまむまへ  
ハ孝と貞徳云其の孝小雉のありふとてと記未明にゆきてる

すこはるけりといはれぬありふことと事<sup>コト</sup> ○燕<sup>ツバメ</sup>をくめ

は返る ○白<sup>シロ</sup>を ○鳥<sup>トリ</sup>の巢<sup>ス</sup> ○帰<sup>カエ</sup>る<sup>ル</sup> 鳥<sup>トリ</sup>の名<sup>ナ</sup> 鳥<sup>トリ</sup>のわ<sup>ワ</sup>い

鳥<sup>トリ</sup>の巢<sup>ス</sup>よかきこと ○雲<sup>クモ</sup>雀<sup>セキ</sup> 鳥<sup>トリ</sup>の名<sup>ナ</sup> 鳥<sup>トリ</sup>のわ<sup>ワ</sup>い

○うそ<sup>ウソ</sup> 俳<sup>ハイ</sup>琴<sup>シン</sup> ○こゆ<sup>コユ</sup>名<sup>ナ</sup> 鳥<sup>トリ</sup>のす<sup>ス</sup>め<sup>メ</sup>子<sup>コ</sup> 口<sup>クチ</sup>菜<sup>サイ</sup> ○蝶<sup>テフ</sup>

胡蝶<sup>コウキョウ</sup> 蝶<sup>テフ</sup> 俳<sup>ハイ</sup>蝶<sup>テフ</sup> ○蜂<sup>ハチ</sup>の巢<sup>ス</sup> ○虻<sup>アブ</sup> 俳<sup>ハイ</sup> ○蛙<sup>カエル</sup> 鳥<sup>トリ</sup>のわ<sup>ワ</sup>い

あけえの<sup>アケエ</sup> 鳥<sup>トリ</sup>のわ<sup>ワ</sup>い



ひまきぐさの地 出雲のうげろふのめゆり

いとゆふ 猶さへ 竹の 葉の ち

初 餅 飯 蛸 志

田 初 稲 びり

八重の梅 黄梅の花

初 桜 枝 孝 桜

玉 槎 苗 代 菓

やもの すき くら の 花

焼 也 田 と ぶ く 苗

萩の 焼 系 畑 田 と ぶ く 苗

代 の 口 糸 柱 麻

くろ ぐ どの ぼ くり 萩 菜

防 風 さ め じ め 草 け ぎ 草 け

み だ り 判 乃 茶 葉 井 敷 子 敷 子

...



手仇家麿（如神）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

○**サ**物（アサ）日（アサ）忍（アサ）茹（アサ）口（アサ）。○**サ**巨（アサ）川（アサ）ち（アサ）や（アサ）口（アサ）。○**海**雲（アサ）。○**紙**き（アサ）き（アサ）の（アサ）い

り（アサ）子（アサ）活（アサ）里（アサ）。○**紙**き（アサ）き（アサ）の（アサ）い（アサ）下（アサ）の（アサ）り（アサ）夏（アサ）の（アサ）い（アサ）を（アサ）に（アサ）よ

及（アサ）い（アサ）お（アサ）た（アサ）る（アサ）  
以（アサ）と（アサ）あ（アサ）り（アサ）

三月（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

や（アサ）お（アサ）ひ（アサ）月（アサ）と（アサ）り（アサ）よ（アサ）り（アサ）と（アサ）も（アサ）よ（アサ）ら（アサ）と（アサ）い（アサ）云（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

此（アサ）上（アサ）の（アサ）己（アサ）乃（アサ）日（アサ）水（アサ）辺（アサ）に（アサ）て（アサ）も（アサ）よ（アサ）り（アサ）て（アサ）疾（アサ）病（アサ）と（アサ）除（アサ）

朗（アサ）詠（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

光（アサ）原（アサ）氏（アサ）出（アサ）浦（アサ）り（アサ）左（アサ）近（アサ）乃（アサ）と（アサ）記（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

○**曲**水（アサ）乃（アサ）寫（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

名（アサ）の（アサ）曲（アサ）水（アサ）乃（アサ）寫（アサ）。○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）

○**新**くむ**芦**（芦泥）。○**たん**や（仇はび）



根原子。枕花の笑所

三日枕のに枕草餅の蓬餅のふん  
多わりのひひるおひ柳花餅のふん

枕花と名よひし一てのぬい百病を除き、  
ありとくや松菽抄よいつ事又、  
金海と子詩句と上己のうらよ出さう、  
ひ柳の葉をとりけけりや、  
世若しこぬ世もあまあわく草餅と  
とめて、宗廟よとてまらるへといつ、  
りて世治り、  
月三日のありあまに感といふ、  
まといつともする事、  
かまふ子丑百くととて、  
清く答もふととて、

天長元年三月四日、  
恒雨も、  
あり、  
かの、  
一らひ、  
新續、

アヲキ 青をふむ

唐ノ俗上巳ニ士女戯スルヲ云也又三月三日上踏青鞋  
履といふ事盧公範結構妙よあり園撰活法ニハ

人日ニ零人遊

御灯と小斗にそまふ

三のむい山

言さるるに火ととりて、  
小斗に法聖をなして、  
師方の小取勝と云

師方の小取勝と云

二日天衣を皇の御衣と云毎年七ケの  
言はるるに法聖と云て、







ろくろの器をまわすのまがき。住吉乃塩子（仇三）。土佐

の海子硯石（仇同）。石山祭（仇同）。粟津祭（ア）

一葉（セウ）。泉涌（ヒシ）。開山忌（カイ）

水尾祭（ハ）。雄法（ホウ）。花（ハ）。也（ヤ）

花（ハ）。吉野の云式（キヨノ）。礼拝講（レイ）

祇園一切絶（ギエン）。比良（ヒラ）。壬生（ニシ）

念佛（ニホウ）。會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）

會（カイ）。の念佛（ニホウ）。勧学（カンガク）



の御出 中ノ午ノ日あり 出孫 ハハチリ 順の峯入 大峯入り

○田代 ウツラ 化して勢となら 日令是候也 ○穀雨の コシウ

節 ウキクサヲヒ 中ノ三月 ウツラ 生をむは 乃月令穀雨也 ○永き日 ナカキ

○まき日 ヲツ ○友色 ナツチカキ ○友とす クレ ○春乃春 ナカキ

ゆく 夫妻の情なり 友の名 ハハチリ ○春 ウツラ 春 ウツラ 春 ウツラ

美 美之貞 ○帰 ウツラ をめ ウツラ ○時 ホトギス の ウツラ 巢 ウツラ ○よ ウツラ

お ウツラ こと ウツラ 雲 ウツラ よ ウツラ 鳥 ウツラ

つ ウツラ 系 ウツラ 乃 ウツラ 乃 ウツラ 乃 ウツラ 乃 ウツラ

○桜 ウツラ 魚 ウツラ 魚 ウツラ 魚 ウツラ 魚 ウツラ

○柳 ウツラ 葉 ウツラ 魚 ウツラ 魚 ウツラ 魚 ウツラ

○菜 ウツラ 子 ウツラ 子 ウツラ 子 ウツラ 子 ウツラ

○新 ウツラ 葉 ウツラ 葉 ウツラ 葉 ウツラ 葉 ウツラ

○山 ウツラ 桜 ウツラ 桜 ウツラ 桜 ウツラ 桜 ウツラ

○吉 ウツラ 野 ウツラ 野 ウツラ 野 ウツラ 野 ウツラ

○人 ウツラ 在 ウツラ 在 ウツラ 在 ウツラ 在 ウツラ







花車 花の車 花の車

花乃弦 花の弦 花の弦

花乃琴 花の琴 花の琴

花乃瑟 花の瑟 花の瑟

花乃笙 花の笙 花の笙

花乃篪 花の篪 花の篪

花乃篴 花の篴 花の篴

花乃篥 花の篥 花の篥

花乃篦 花の篦 花の篦

花乃篳 花の篳 花の篳

花乃篥 花の篥 花の篥

花乃篦 花の篦 花の篦

花乃篳 花の篳 花の篳

花乃篥 花の篥 花の篥

花乃篦 花の篦 花の篦

花乃篳 花の篳 花の篳

花乃篥 花の篥 花の篥



○木モクの花ハナはハ○赤南シヤウナン花ハナはハ○種タネ柄ハの花ハナはハ○小コ米メ

乃ノ花ハナはハ○こコてテまマるルはハ○小コ梅メのノ花ハナはハ○庭ニワ桜オウゴンはハ庭ニワのノ花ハナはハ

○馬ウマ醉サイ木キ花ハナはハ○杏アン子ジのノ花ハナはハ○アアんンのノ花ハナはハ

○檜ヒノ花ハナはハ○榊カキ乃ノたタるルはハ○やヤ中チウのノ花ハナはハ○東トウ

のノ花ハナはハ○藤フジはハ枝エダのノ花ハナはハ○草クサ

○芽ツバ花ハナはハ○物モノ杞キはハ○ちチのノ花ハナはハ○つツむムはハ

○うウあアまマ○新シン茶チャはハ○春シュン菊キクはハ○あ

づヅはハ菊キクはハ○かカらラいイ菊キクはハ○桜オウゴンはハ

○馬ウマ蔭インはハ○急キウ比ヒはハ○金キン鳳フウ花ハナはハ○ちチのノ花ハナはハ

子シ草ソウ○眉メイ化カのノ花ハナはハ○仙セン其キ秋シュウ○菊キク

極キョク智チはハ○いイとトつツむムはハ○之シ茶チャはハ○之シ中チウのノ花ハナはハ○之シ

月ツキ菜サイ○三サン月ゲツ大ダイ根コンはハ○あアさサつツはハ

○ぜんゼンはハいイ○春シュン雨ウはハ○やヤのノ花ハナはハ○山サン吹フイ

○山サン吹フイはハ○夜ヤはハ

表ウラ白ハク裏リ赤セキをヲとト○山サン吹フイはハ



〇ろく山吹表黄のぼく衣表青

百夏 朱明 昊天

四月

卯月卯の花月(花玉) 得志の月は花流り月 巳月 正陽  
之月(若菜) 孟夏 中呂 初夜 余月 卯月とツカ

卯の花月とツカ(まきと畧) **更衣** 一日 白重 文夜の時の  
律中呂とわさむい中呂とわさむ **白重** 文夜の時の  
夜ありと

負徳 **青** 文夜と夜 **あせ** 備けぬき日 **主水司** モントノツカサ  
洗く **青** 夜とかく **あせ** 夜とかく **主水司** 夜とかく

**始供** 氷 一日 **孟夏** 孟夏の旬 一日 扇をのみ 扇の辨(夜  
の季) **麻** 一日 扇をのみ 扇の辨(夜

扇とわさむい改ときらう **麻** 一日 扇をのみ 扇の辨(夜  
扇をわさむい改ときらう **麻** 一日 扇をのみ 扇の辨(夜

愚見抄云は別くまの神の祭より **稲荷** 神  
男の祭と鶴といひてきて女の返り事あり **稲荷** 神



弘法大師の御成道の御時給と為ひし御子歎し徳者の御幼とし  
こまに建立成禱しておのゝまゝ八枝徳者の御子侍り給へり  
給ふ所を御幼の時給より進く出現し給へり遊のやと世に成  
老と云ふ家子あまをりそと子侍りて今今の給ふ山科  
唐ありその法接せりこの日救とてなりそと成り  
長老が家いまいとおぶといふおんまにそ縁起なり

ご給ふ山科徳神の所地とてあり給へり海を西容  
と大原とつくり給ふ徳神の言を初まのり給  
ふ神実子くわらねりて是こ成説なり

大神の祭  
卯日之禰  
の事あり

山科祭 上巳日  
平野祭 上申日  
松尾

祭 同日今  
當麻祭 上申日  
杜本祭 同日  
南

宗祭 上西日何内し午日勅候あり杜本尚宗  
近辺一人の供あり杜本立云く公事  
梅宮祭

同日掃氏  
水屋能 三日四日五日  
廣津の禱

田名祭 四日給あ社大和子あり廣津大忌神禱  
山崎の日

子使 佛三日或い  
瀬祭 沈辰日  
擬祭 奏 七日

の列尺の時の成選の短冊と式云  
灌佛 八日 仏舎舎 禱花  
二者よりいそとあると大忌奏する也

五香山 浴佛 仏法をに斎とすけ五香水  
戒壇堂

の月帳 八日山門  
山崎祭 同日天を奏  
多加祭



祭ヒ上巳。江別ノ幡祭中卯。手安天神祭ヒ上巳

とに取。伊勢神衣祭十四日麻枝の由とよ氏人麻うと

祭ヒ上巳。日吉祭中申日山皇祭之大喜聖まは二ノ言ハ五子

とに取。加茂祭中西形わひ桂ちちちノ上賀茂

祭ヒ上巳。吉田祭中子日吉田の女日比事之

祭ヒ上巳。開白の賀茂祭中申主入の車にて地下及上人あり

祭ヒ上巳。三枝祭三枝の元と両様より

祭ヒ上巳。千園子十六日之井ちの鬼子母神

祭ヒ上巳。向日明神祭中。久世ヒ上巳

祭ヒ上巳。清水地皇祭九日。當麻法事十四日中ね

祭ヒ上巳。土塔會天五ち。日光祭十七日。菅スグ

祭ヒ上巳。宮ヒ上巳。花ヒ上巳。神ヒ上巳

祭ヒ上巳。梅ヒ上巳。和清の天ヒ上巳

祭ヒ上巳。梅ヒ上巳。和清の天ヒ上巳

祭ヒ上巳。梅ヒ上巳。和清の天ヒ上巳











五月 さつき月 又 さつき月 たちいさ月 仲夏 雑 實 阜日 子尚

名との 加 茂の足ぞろく 能一日競 〇松本祭 日

〇献 三 昌蒲 三日 〇あやめ の薬

〇内膳司供子瓜 ナイゼンツカシガスワツラ

〇五日の節 セケエ 〇あやめのく あやめの机

〇端午の節 端午 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机

〇あやめ あやめのく 〇あやめのく あやめの机



侍るよやまおまのこまりのむもよめり 郭公あやさはきの  
むくつけとよめりも是といひりあたり 風俗通よの長命湯  
今縁もいひ五兵と辟る故も辟兵縁也  
いつくしや字記よの條を連とつる是あり  
○薬日 クスリヒ 五月五日 ヒ と云こ

○菓草摘 ツム 競近 キツヒ 九百  
○ちます記 こもちます 芦ちます記  
わくちます記あめちます記

かざりちます記 かざりちます記 角黍 角粽 稚粽 荳稗 稗穂  
粽九子粽 高辛氏の忍子五月五日よあま枕めろそ 又あ神  
とあてくそとあやせり 或は五色の糸を粽としてあま入る

五色のぶらとあるぬあ神人ともあはぶらぶともいひ又楚乃  
屋原が海原よ枕一とあるつじにわくちます記 世法問答  
よわらういさあ拾遺お集るとなりちます記とつる天福奉は

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ

かざり 粽とかざりちます記よの角黍九子  
○あづり カブト 甲 ヒ



笏とをげて付あてこれと合れりわりと天竺をこしにあり又水  
と依り白園と名つけ或い五とまて一人歎花菓をどのりこ  
依り清珍園と名づけて端午  
に依り予歳付雜記より

○**柘印符** 五月 ○**赤靈**

付 同日いらどれるかとりけきぬテングの符ととて屏風に依り  
と依りときて忍丸とやむるわざする幸と枕下とつり又抱朴  
子とよ書よ端午は赤靈符と依り

○**百草**とたぐり

これと端午よまての草と合せて浴衣  
とありそよたをよまてあしラニ湯とあは  
五月五日菖蒲とくくしてゆわとよ本大戴礼  
よあり是いよの世の菖蒲のゆ乃とくくありし

○**草木の巻**

○**鳥乃あつと** 幸又端午にも木の巻と百  
官よありし傳史ありし

○**鶺鴒**

の音と去

雲々後記は鶺鴒と記て五月五日はそ古のどがりとされ  
くくおひいさあやうある幸鶺鴒よこくと伝

幸又 ○**競渡** ○**水馬** 競渡といふは五月五日はそ古のどがりとされ  
よま

五日に湘尾は沈てうをぬくをせとて舟楫とてこれと依り  
幸幸いりたてて上競渡乃よりあまは世よをまてりあま紙

のふくは競渡の舟のうろくやま紙をいひつり又水馬を  
水馬といひ紙のふく舟と車といひ楫とてと云ふは此舟を危

車水るとい ○**騎射** 馬弓年中行まの合云五月五日幸と依り  
よま幸文

○**左近乃ま手あひ** 左近のま手あひは六月の  
とひさりれ日といひ五月五日はそ

のわつてつうい四日たをのま手あひ五日は左を乃ま手つうい六  
日たをのま手つうい五日を康乃は身福の庇と引おへる



故よりいさりの目といつるをまきあひもなるさあまうりまきあひ  
正日あるいそといさりとつし思えおまの左衣とのる場とてまに  
のり引つるまあるをま  
虎の湯村といふあり  
○**下地**他世清問答よりよきまの小弓と  
りちていんぢとてまはまうり  
乃湯村とま  
○**神水**スイ 湯午時ノ雨竹ニ  
タニル水之本草綱目  
○**加茂乃**  
○**競馬**キヲヒムニ  
昔日くまきといさる東方馬とてたむよつびてま  
らくまはまありらちとつひ勝負の木の下とてまは  
と決  
○**あまちねおびま**昔日俗人標茶とまうてお  
ひまのとして  
○**藤本林祭**他五日神りまの  
祭るまあり  
○**さ月の鏡**カハミ 百練鑑揚子に  
て湯午は洞と  
煉ている鏡あり(幸之)  
○**今宮祭**九日今宮  
十五日  
○**宇治祭**他八日きんぐりとまま  
いひまてはる也  
○**室乃明神祭**他十三日  
○**両社祭**  
○**宍勝講**東大寺無福寺  
延暦寺園城寺  
○**賑給**賑給  
賑給

今人親王と崇  
天と祝  
○**有無日**他五日貞徳村上天皇の法忌  
天子の法忌日とヤま名目也此日大内よ  
坂本ニ  
○**宍勝講**東大寺無福寺  
延暦寺園城寺  
○**賑給**賑給  
賑給  
○**賑給**賑給  
賑給











五月廿八日 貞徳云もも一の夏の長くきにながしつゝ池子火と云り  
 下申すこれハ麻子火目と云ふを引よておこるゝさみおい  
 の子火人。鶯ノ巢。小鯨。水鯨。多鯨。  
 ○はつまやご。○菖蒲帷子。○学抄。○くゝ  
 びく。○ばくも。日貞徳云ばくもといふはくもといふ  
 事におくまかひるは事かねば夜よ  
 あり

六月

六月 壬午つき凡十日 ありかじ日 孝衣日 林徳 且日 朔日  
 陽氷 多ありつきとつまといふまともまつさとつゝ又い五日  
 よい一子あは皆つきとつまといふ子貞徳云此日律林徳よあ  
 なる由一各付一と陸の字よ又まうて此以を中一のぬと測り  
 いひあくふ。○氷室。一日氷室の法河 氷のおまの氷水めそ  
 あやまると。氷室の言 氷室の標 氷餅 祓子 他  
 貞徳云氷室乃氷四月一日より九月まで 載るおあれとも六月一日  
 とおあると利子火くよよお定むと云く季今葉は四月より 載る  
 事い此在式水式よみく熱日るれハ御殿も氷と利りとひの  
 おあのとつよ一原氏常夜をよも氷あめす事付り 千載集よ氷室  
 山より様をよまつる事もあり又氷室の言も及こ  
 この比乃世俗ハ氷餅と云ふるをぞらて細日に用ひ付り。○忌火乃  
 御飯と供也 細日忌火といふ神の火をおかす事よ日  
 次神今食の法神事をよらぬあり

六月



成(一)内膳司よりなるを大膳の  
一秋馬 こぎやあき馬  
ひとよさげと

六月會 四日侍者大膳の忌日なれは延暦ちよ  
ておこるる勅使堂山の後式を公事

御待比御ト 十日神祇友の官人之上の御待比はつし  
こわらん事とさうるひ奏する事あり公事

月次の祭 土日土日月もあつたれは六月十二日ニ祭法  
社へ御幣ととさうるせたすよ事あり公事

神今食 同日これも年よニ公ニ伊勢太神宮と勅法  
日されて天子の御く神餅と供せし事あり

解齋の法粥 十二日神今食の次乃御ひの法社  
の大床子よて其堂一御ととさく

祇園會 七日春融院天迎ニ至六月六日助正と子祐の家  
言は東同院へ法堂ありき其堂はより室を

告ぐこ 孟嘗君の古事しかん  
こふことひひあき ○月不こ ○

長刀がこ ○ 函 カシ

舟がこ ニハトリホコ  
舟がこ 人形相子

菊水祥 意量と云は非之菊は菊  
人形あり

教下祥 ホウカ  
人形あり ○舟がこ 舟功皇后子破良干珠は珠

岩戸山 イハト  
日本紀神代の老乃ありははちあめつちい

ていあり

佐世のちも赤き土蓋は赤布乃流汁物と  
そくあり三口食て御箸と云ふ云(公事)

のうあり七日は糸をくすたり委吉公のけ  
のの四糸系極乃御儀亦よ近たあり

意量と云は非之菊は菊  
人形あり

日本紀神代の老乃ありははちあめつちい  
ていあり



此ところといふるは、向の山ありて、きりぎりすは、日神岩  
戸よりこぼるるを、くさるに、この世の玉は、なかりきりぎりすを、さるりする神  
あり。○**占お山** カヲテ 神功皇后三韓と、うらたは、松浦川より出  
たり。記あり。

○**宗山** モウヂウ 木四孝乃、言中、に、笥城。○**郭巨山** カクキョウ 日谷、堀山、  
は、谷、堀山、  
は、谷、堀山、

○**琴破山** コトキ 或ハ、伯牙、の、琴、破、た、云、ぬ、何。○**蜘蛛山** カネキリ 左車、まむ  
は、あ、  
は、あ、

○**白樂天山** シラツクテン 乃、林、神、原、素、望、山、松、乃、上、に、年、と、ち、竅、和、志、と  
い、つ、る、朱、を、び、て、回、答、せ、し、に、  
い、つ、る、朱、を、び、て、回、答、せ、し、に、

○**太子山** タイシ 聖、徳、太子、天、五、古、の、義、を、め、に、除、山、よ、入、て、松  
の、木、よ、教、育、の、儀、と、城、造、り、ま、し、こ、ま、枝、の、記、  
の、木、よ、教、育、の、儀、と、城、造、り、ま、し、こ、ま、枝、の、記、

○**木賊刈山** トクニカカリ ころ、さ、刈、り、の、東、山、は、本、の、馬、り、と、み  
く、ん、智、林、の、祭、月、計、め、る、ま、は、山、に、  
く、ん、智、林、の、祭、月、計、め、る、ま、は、山、に、

○**芦刈山** アシカシ 大、和、地、諸、は、思、あ、り、て、あ、り、と、ち、あ、り、ま、し、  
い、つ、る、な、ま、い、け、ら、い、つ、る、こ、ま、と、あ、る、さ、は、め、く、  
い、つ、る、な、ま、い、け、ら、い、つ、る、こ、ま、と、あ、る、さ、は、め、く、

○**盗人山** スツヒヒラカセ 生、み、ふ、祥、と、い、ふ、い、り、い、り、と、い、つ、る、こ、ま、と、あ、る、さ、は、め、く、  
あ、る、ひ、の、梶、系、り、え、び、り、と、毒、と、あ、り、ゆ、り、神、と、も、  
あ、る、ひ、の、梶、系、り、え、び、り、と、毒、と、あ、り、ゆ、り、神、と、も、

○**山伏山** ○**天神山** ○**比立神** ヒタテカミ

○**十四日** シヨウジツ 七、日、に、由、旅、み、へ、出、立、り、神、楽、と、い、ふ、  
戦、室、の、中、社、へ、り、な、し、ま、り、ま、り、ま、り、  
七、日、に、由、旅、み、へ、出、立、り、神、楽、と、い、ふ、

○**野山** ノヤマ 乃、の、り、る、神、あり。○**夢子山** ユメコ 平、家、地、津、守、名、  
乃、の、り、る、神、あり。○**夢子山** ユメコ 平、家、地、津、守、名、  
乃、の、り、る、神、あり。

○**黒主** クロヌシ 古、今、  
乃、の、り、る、神、あり。○**黒主** クロヌシ 古、今、  
乃、の、り、る、神、あり。

○**道行者山** ミチヤクシャヤマ 六、年、後、の、う、え、そ、く、小  
乃、の、り、る、神、あり。○**道行者山** ミチヤクシャヤマ 六、年、後、の、う、え、そ、く、小  
乃、の、り、る、神、あり。

○**角尾神** ツノビカミ 乃、の、り、る、神、あり。○**角尾神** ツノビカミ 乃、の、り、る、神、あり。







伊勢の祭神 伊十六七日 伊勢の祭神 伊十六七日 伊勢の祭神 伊十六七日

志渡ち祭 日十七日 座取の涼 伊十九日

富士詣 日一日より十日 清水洗詣 日十日

鞍馬の竹切 日十日 豊宕十日詣 日十日

橋立祭 日廿五日 天満天神御祓 日廿五日

大坂産磨祭 日廿日 加茂みか日祓 日廿日

住吉の法祓 日 唐崎おひり 日

手洗いむら... 大板 日十日 形代 日



これと  
○**茅子痛** 是年天土後民來よき一のりきき  
と云く 疫病をやらんととき 種民來よ子孫に

と云ひて茅の痛と云ふは災難とのりんと  
のりふ少も今も後茅の痛と云ふあり ○**反神樂** ナツカッラ

○**川社** 是も反後川を以て相をかすて神と云る事とあり  
袖中およあり 反神樂の時も

○**小蠅をま神** 貞徳云蠅乃そく恐神多と云こさき  
あつらふと云ふと云ふてまいること

とぞするとよめりさき  
○**徳火祭** 此日ト部氏の火と云て  
ま成の四乃角と云

○**乃郷食祭** 日四角四境のあり  
ト部人部の四方の

と云く乃地方よりあると云後境の境をたんとめり上は供物  
と云く乃地方よりあると云後境の境をたんとめり上は供物

○**施米** 東山西山山をどの心ちれらるる記は原を  
塩とおほやけしと云く事あり (五事)

○**雷鳴の陣** 雷の多き言く多きは  
将まで引かすと帯して出敷の縁店に

て帝と云後しと云事西云記に六月のふよ  
○**小暑節** セウショ

○**温風** ウンフウ 日令 ○**鷹羽つひとおる** トウ ○**大暑**

○**腐草螢** カウソウ とる 日令 ○**溽暑** チヨクシヨ ○**あひ**

○**夕立** タタリ 日令 大ぬけよと ○**天賜節** テンゲイノセツ 六日 祥

○**三伏** サンフク 夏至の存中との庚の  
日と初伏といひ

○**書言** カキコト 故事

○**天賜節** テンゲイノセツ 六日 祥

○**三伏** サンフク 夏至の存中との庚の  
日と初伏といひ



の庚と中伏といひ立秋の仔家初の庚と未伏といふこれと伏と  
ひこ夏火の秋の金こ夏と一陰生して火盛るる所中  
れい金氣伏くふ心子伏といひ子とそ(書云故事)秦の所よ  
伏祠と祀りて盛災とふせくに伏日にふりし幸あり仔漢の  
時伏日よる居りて(漢日)土用于伏中于扇扇  
と用ふる幸あり(幸又)

扇扇引引伏伏扇扇すすひひ日日  
○汗拭汗拭ひひ○簞タカシロ  
竹奴竹婦人脚たりちちららいたいたげげ子子

てとれり返之竹奴竹婦人いたけの心とてまきあるい足とかりせを  
りして涼しきとていふたための器なり山谷詩より脚もあらし  
たひひ○涼スシ日涼しきとていふたための器なり山谷詩より脚もあらし

○風カナル蕙ナシクシ  
南蕙六月より涼風之蕙風○雲雲峯峯

夜更フシキ多多峯峯と陶淵明の詩に負暄云六月烈日の  
け分更の夜にきき峯の中りあるといふあり

○清水清水結結子子負負暄暄云云伝伝云云あり

○あさあさ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ

○ああささ地地酒酒○醬シヤウ油ユウつつるる○醬ヒシホつつるる○ああ



○子<sup>サモ</sup>楸<sup>ヒ</sup>日 ○楊<sup>ヤ</sup>梅<sup>モ</sup>日 ○李<sup>スモ</sup>日 ○林<sup>リン</sup>檜<sup>コ</sup>日 ○百<sup>ハク</sup>日<sup>ジツ</sup>紅<sup>コウ</sup> ○梅<sup>バイ</sup>

子<sup>コ</sup> ヤシシをてこかろをてこ川京梅子也 ○蓮<sup>ハナス</sup> 荷葉也 ○浮<sup>フ</sup>海<sup>カイ</sup> ○河<sup>カウ</sup>

骨<sup>ホネ</sup> ○菱<sup>シシ</sup>の花<sup>ハナ</sup>日 ○蒲<sup>カ</sup>乃<sup>ホ</sup>植<sup>ツキ</sup>日 ○海<sup>ウミ</sup>松<sup>マツ</sup>日 ○服<sup>ウツ</sup>皮<sup>ヒ</sup>日

○蘭<sup>ラン</sup>と<sup>ト</sup>刈<sup>カ</sup>日 ○株<sup>ケ</sup>子<sup>コ</sup>日 ○秩<sup>テツ</sup>線<sup>セン</sup>花<sup>ハ</sup>日 ○眼<sup>ガン</sup>皮<sup>ヒ</sup>日

○凌<sup>ノウ</sup>霄<sup>セン</sup>花<sup>ハ</sup>日 ○き<sup>キ</sup>り<sup>リ</sup>し<sup>シ</sup>日 ○き<sup>キ</sup>り<sup>リ</sup>ん<sup>ン</sup>草<sup>ソウ</sup>日 ○は<sup>ハ</sup>

○村<sup>ヤカ</sup>子<sup>コ</sup>日 ○紫<sup>シ</sup>菰<sup>ソ</sup>日 ○志<sup>シ</sup>尼<sup>ニ</sup>日 ○灯<sup>トウ</sup>

○麻<sup>アサ</sup> 様麻花の様子似たり ○香<sup>カウ</sup>薷<sup>ジュ</sup>散<sup>サン</sup>斗<sup>ト</sup>日 ○蒜<sup>シ</sup>乃<sup>ノ</sup>根<sup>ネ</sup>日 ○瓜<sup>ウリ</sup>日

○夕<sup>ユフ</sup>敷<sup>カホ</sup>日 ○昼<sup>ヒル</sup>顔<sup>カホ</sup>日 ○小<sup>コ</sup>

○角<sup>カク</sup>豆<sup>トウ</sup>日 ○祢<sup>ニ</sup>ひ<sup>ヒ</sup>日 ○蝉<sup>セン</sup>日

○可<sup>カ</sup>友<sup>ユ</sup>虫<sup>チュウ</sup>日 ○日<sup>ヒ</sup>乃<sup>ノ</sup>蟬<sup>セン</sup>日

○秋<sup>アキ</sup>乃<sup>ノ</sup>蟬<sup>セン</sup>日

○蠅<sup>エビ</sup>日



增續山井四季之詞上之終



終身不替

